

米に関するマンスリーレポート

(平成24年9月7日公表)

農林水産省

【お知らせ】

- ※ 今号から、
Ⅴ - (2) 「平成24年産水稻の作柄概況（8月15日現在）」
Ⅶ - (1) - ④ 「23年産米の特別隔離対策等による米の供給減少分の代替供給量」
を掲載します。

【本資料の目的】

「米に関するマンスリーレポート」は、米に関する価格動向や需給動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】

1. 「米に関するマンスリーレポート」は、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得ます。
2. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
3. 本資料に関する問い合わせ先

生産局農産部農産企画課
担当者：岩井、島本、鬼海
代表：03-3502-8111（内線4975）
ダイヤルイン：03-6738-8973
FAX：03-6738-8976

目 次

I	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成24年8月）	1
II	集出荷段階の動向	
	（1）相対取引価格・数量	6
	① 相対取引価格（主な産地銘柄別、平成24年7月）	
	② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成23年産米）	
	③ 相対取引価格（年産別）	
	④ 相対取引数量（累積数量、主な産地銘柄別、平成24年7月）	
	（2）民間在庫（出荷段階）の推移	9
	（3）23年産米相対取引基準価格（全農）の推移	10
	（4）㈱加工用米取引センターの取引結果	10
	（5）米の先物取引価格の推移	11
III	卸売段階の動向	
	（1）民間在庫（販売段階）の推移	12
	（2）業者間取引の状況	13
	① 日本コメ市場（随時取引の結果）	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）	
IV	小売・消費段階の動向	
	（1）消費者物価指数の推移	14
	（2）小売物価統計の推移	15
	（3）小売価格の推移（POSデータ）	16
	（4）購入数量の推移（家計調査）	17
	（5）米の消費動向（米穀機構による調査）	18
V	生産段階の動向	
	（1）国産米（水稻）の作況・収穫量	20
	（2）平成24年産水稻の作柄概況（8月15日現在）	20
	（3）加工用米及び新規需要米の取組状況	21
	① 加工用米の生産量	
	② 新規需要米の用途別認定状況	
	（4）水稻うるち玄米の検査結果	22
VI	民間流通における6月末在庫の推移	22
VII	備蓄米及びMA米の動向	
	（1）国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量	23
	① 24年産国内産米穀の政府買入入札の結果	
	② 国内産備蓄米の売渡数量	
	③ 政府備蓄米の在庫の状況（平成24年6月末現在）	
	④ 23年産米の特別隔離対策等による米の供給減少分の代替供給量	
	（2）MA米（一般・SBS）の動向	25
	① MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	
	② 一般輸入米（加工原材料用）の販売状況（平成24年度）	
	③ SBS米の販売状況（平成23年度）	

I 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成24年8月)

○ 米取引関係者に対して、需給動向や価格水準などの取引動向に関するアンケートを実施し、その結果をDIとして算出したものである(詳細はP5)を参照。

1. 国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

①主食用米の需給動向

(ア) 現状判断DI

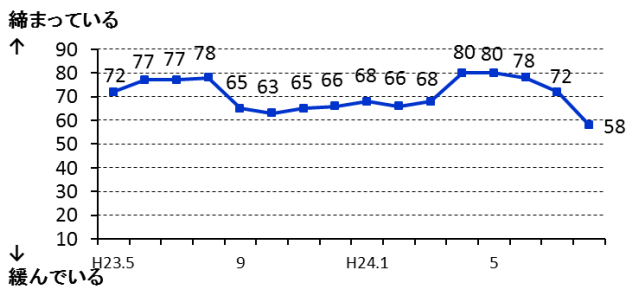
前月からの増減 -14 (今月の数値 58)

(イ) 見通し判断DI(向こう3ヶ月)

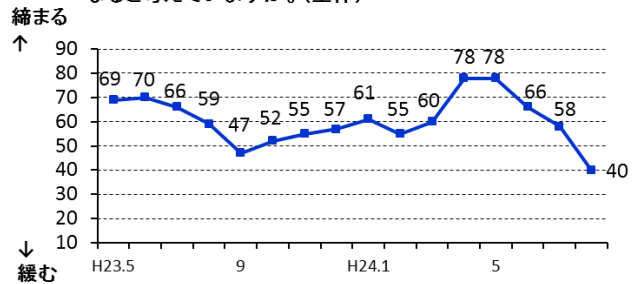
前月からの増減 -18 (今月の数値 40)

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来)締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来)緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

①-ア 国内の主食用米の”現在の需給動向”について、どう考えていますか。(全体)



①-イ 国内の主食用米の”向こう3ヶ月の需給動向”について、どうなると考えていますか。(全体)



②主食用米の米価水準

(ア) 現状判断DI

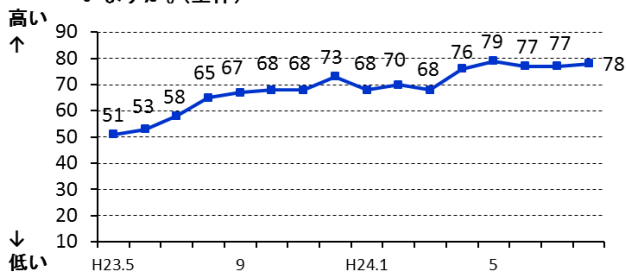
前月からの増減 +1 (今月の数値 78)

(イ) 見通し判断DI(向こう3ヶ月)

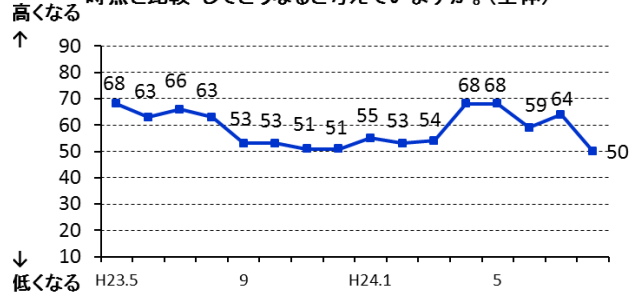
前月からの増減 -14 (今月の数値 50)

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、米価水準が高い/米価水準が高くなるという見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、米価水準が低い/米価水準が低くなるという見方が前月より強くなった傾向を示す。

②-ア 国内の主食用米の”現在の米価水準”について、どう考えていますか。(全体)



②-イ 国内の主食用米の”向こう3ヶ月の米価水準”について、”現時点と比較”してどうなると考えていますか。(全体)



③ 取引関係者が①及び②の判断を行うに当たり、主に考慮した要因

	作柄	国内の在庫水準	国の政策	米穀の調達状況	消費者の動向	競合商品の販売動向	その他
H23.5	3%	33%	12%	-	17%	7%	28%
H23.6	5%	38%	8%	-	20%	8%	20%
H23.7	7%	34%	11%	-	12%	8%	28%
H23.8	14%	28%	7%	-	19%	7%	25%
H23.9	22%	23%	4%	-	23%	7%	21%
H23.10	22%	23%	3%	-	27%	6%	19%
H23.11	14%	18%	3%	-	34%	10%	21%
H23.12	8%	11%	2%	46%	22%	3%	8%
H24.1	6%	14%	3%	48%	19%	2%	8%
H24.2	4%	17%	2%	48%	20%	3%	6%
H24.3	2%	14%	4%	54%	18%	2%	6%
H24.4	2%	9%	2%	69%	8%	5%	6%
H24.5	2%	13%	4%	66%	8%	4%	2%
H24.6	1%	15%	3%	61%	9%	6%	6%
H24.7	4%	22%	1%	62%	3%	3%	5%
H24.8	20%	10%	2%	46%	12%	3%	6%

2. 自社の取引状況に関する判断(業態毎)

①主食用米の販売数量

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「増えた」/「(将来)増える」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「減った」/「(将来)減る」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

(ア) 今月の販売数量に関する現状判断 D I

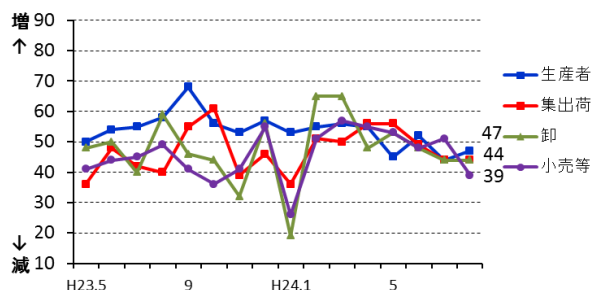
a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	+ 3	(今月の数値	4 7)
集出荷：前月からの増減	± 0	(今月の数値	4 4)
卸：前月からの増減	± 0	(今月の数値	4 4)
小売等：前月からの増減	- 1 2	(今月の数値	3 9)

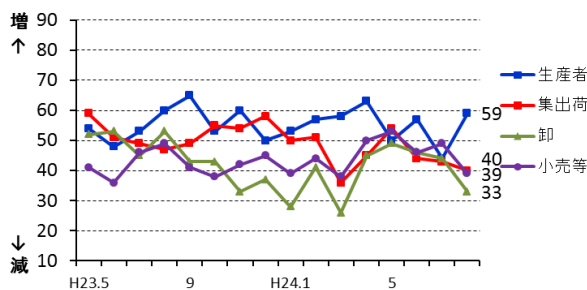
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+ 1 5	(今月の数値	5 9)
集出荷：前月からの増減	- 3	(今月の数値	4 0)
卸：前月からの増減	- 1 1	(今月の数値	3 3)
小売等：前月からの増減	- 1 0	(今月の数値	3 9)

①-ア-a 貴社の“今月”の主食用米の“販売数量”について、“先月と比較”するといかですか。



①-ア-b 貴社の“今月”の主食用米の“販売数量”について、“前年同月と比較”するといかですか。



(イ) 来月の販売数量に関する見通し D I

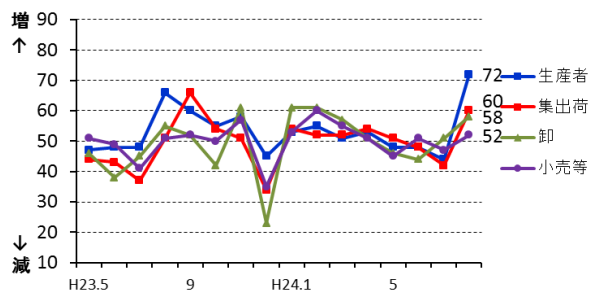
a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	+ 2 8	(今月の数値	7 2)
集出荷：前月からの増減	+ 1 8	(今月の数値	6 0)
卸：前月からの増減	+ 7	(今月の数値	5 8)
小売等：前月からの増減	+ 5	(今月の数値	5 2)

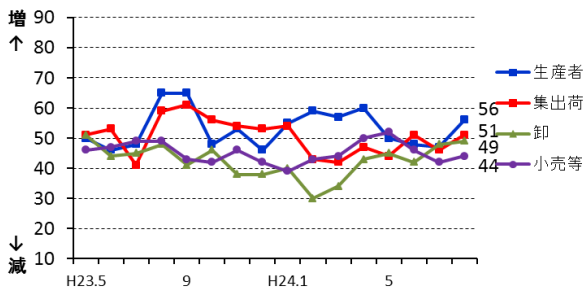
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+ 9	(今月の数値	5 6)
集出荷：前月からの増減	+ 5	(今月の数値	5 1)
卸：前月からの増減	+ 1	(今月の数値	4 9)
小売等：前月からの増減	+ 2	(今月の数値	4 4)

①-イ-a 貴社の“来月”の主食用米の“販売数量”について、“今月と比較”してどうなると考えていますか。



①-イ-b 貴社の“来月”の主食用米の“販売数量”について、“前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



②主食用米の価格

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「高くなった」/「(将来)高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「低くなった」/「(将来)低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

(ア) 今月の価格に関する現状判断 D I

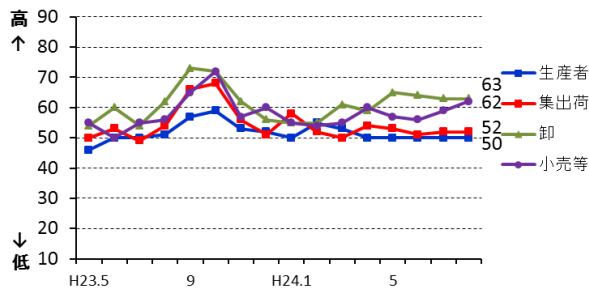
a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	± 0	(今月の数値	50)
集出荷：前月からの増減	± 0	(今月の数値	52)
卸：前月からの増減	± 0	(今月の数値	63)
小売等：前月からの増減	+ 3	(今月の数値	62)

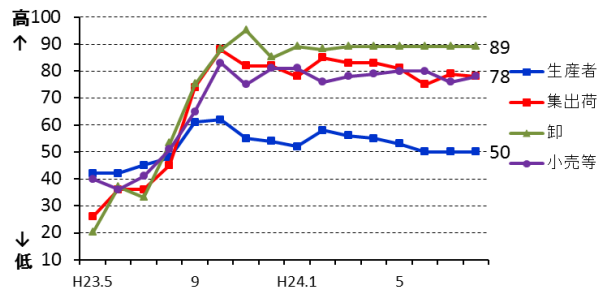
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	± 0	(今月の数値	50)
集出荷：前月からの増減	- 1	(今月の数値	78)
卸：前月からの増減	± 0	(今月の数値	89)
小売等：前月からの増減	+ 2	(今月の数値	78)

②-ア-a 貴社の“今月”の主食用米の“価格”について、“先月と比較”するといかがですか。



②-ア-b 貴社の“今月”の主食用米の“価格”について、“前年同月と比較”するといかがですか。



(イ) 来月の価格に関する見通し D I

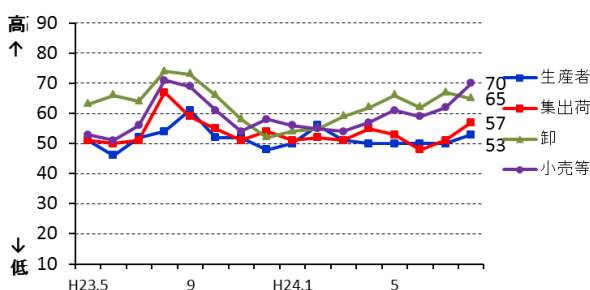
a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	+ 3	(今月の数値	53)
集出荷：前月からの増減	+ 6	(今月の数値	57)
卸：前月からの増減	- 2	(今月の数値	65)
小売等：前月からの増減	+ 8	(今月の数値	70)

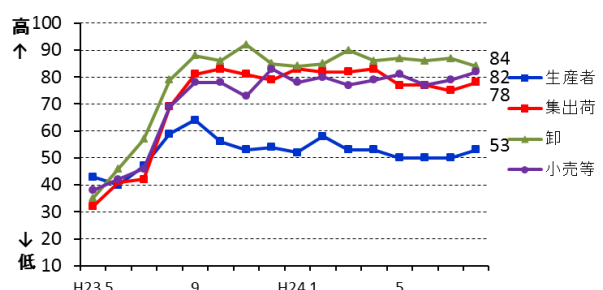
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+ 3	(今月の数値	53)
集出荷：前月からの増減	+ 3	(今月の数値	78)
卸：前月からの増減	- 3	(今月の数値	84)
小売等：前月からの増減	+ 3	(今月の数値	82)

②-イ-a 貴社の“来月”の主食用米の“価格”について、“今月と比較”してどうなると考えていますか。



②-イ-b 貴社の“来月”の主食用米の“価格”について、“前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



③主食用米の在庫量

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「多くなった」/「(将来) 多くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「少なくなった」/「(将来) 少なくなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

(ア) 今月の在庫量に関する現状判断 D I

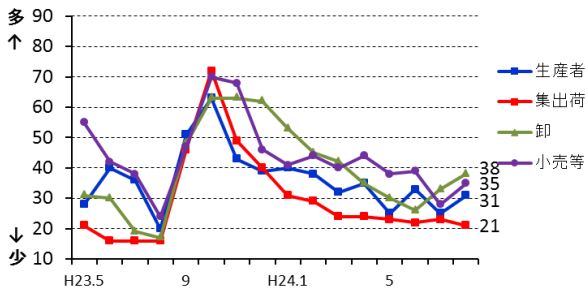
a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	+ 6	(今月の数値	3 1)
集出荷：前月からの増減	- 2	(今月の数値	2 1)
卸：前月からの増減	+ 5	(今月の数値	3 8)
小売等：前月からの増減	+ 7	(今月の数値	3 5)

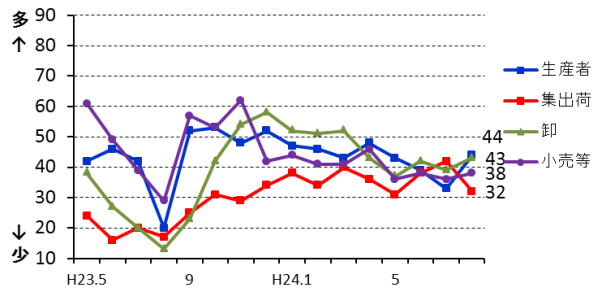
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+ 1 1	(今月の数値	4 4)
集出荷：前月からの増減	- 1 0	(今月の数値	3 2)
卸：前月からの増減	+ 4	(今月の数値	4 3)
小売等：前月からの増減	+ 2	(今月の数値	3 8)

③-ア-a 貴社の“今月”の主食用米の“在庫量”について、“先月と比較”するといかがですか。



③-ア-b 貴社の“今月”の主食用米の“在庫量”は、“前年同月と比較”するといかがですか。



(イ) 来月の在庫量に関する見通し D I

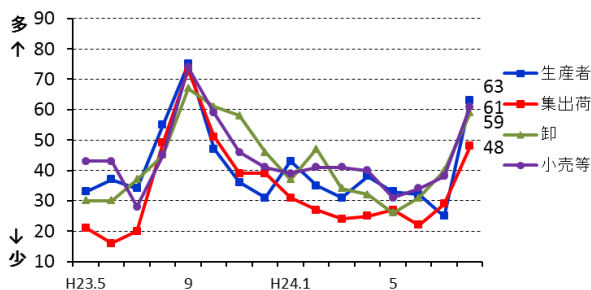
a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	+ 3 8	(今月の数値	6 3)
集出荷：前月からの増減	+ 1 9	(今月の数値	4 8)
卸：前月からの増減	+ 1 9	(今月の数値	5 9)
小売等：前月からの増減	+ 2 3	(今月の数値	6 1)

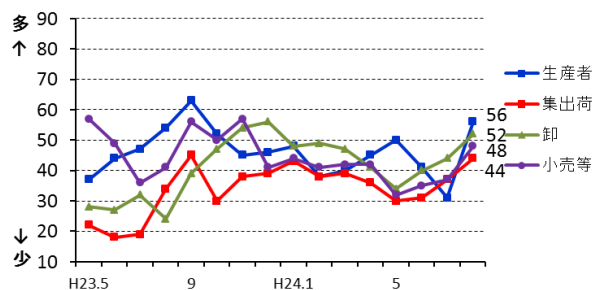
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+ 2 5	(今月の数値	5 6)
集出荷：前月からの増減	+ 7	(今月の数値	4 4)
卸：前月からの増減	+ 8	(今月の数値	5 2)
小売等：前月からの増減	+ 1 1	(今月の数値	4 8)

③-イ-a 貴社の“来月”の主食用米の“在庫量”について、“今月と比較”してどうなると考えていますか。



③-イ-b 貴社の“来月”の主食用米の“在庫量”について、“前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



《アンケート方法等》

○調査期間：毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答

○調査方法：電子メールを利用したアンケート調査

○調査対象者：全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の154客体

○有効回答数：125客体

- 生産者・・・・・・・・・・・・・8
- 集出荷業者／団体・・・・・・・・・・31
- 卸売業者（主に主食用米）・・・・31
- 小売業者／中食・外食関係業者・・37
- その他・・・・・・・・・・・・・18

※「その他」は以下の業者を示している。
 ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
 ・加工原材料米穀を使用し、加工食品（酒類を含む）を製造・販売する者

《利用上の注意》

○表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しないことがある。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断（評価）にそれぞれ点数（評価点）を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じてDIを算出。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ（量感）を表すものではない。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが算出されることに注意が必要である。

（DIの算出例）

問：国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

II 集出荷段階の動向

(1) 相対取引価格・数量

① 相対取引価格(平成23年産米の主な産地銘柄別、平成24年7月)(速報)

(単位:円/玄米60kg)

産地	品種銘柄 (地域区分)	24年7月 ①	【参考】			
			24年6月 ②	対前月比 ①/②	23年7月 (22年産) ③	対前年 同期比 ①/③
北海道	北海道 きらら397	—	—	—	—	—
	北海道 ななつぼし	—	—	—	—	—
東北	青森 つがるロマン	—	—	—	—	—
	青森 まっしぐら	13,790	13,650	(101%)	10,460	(132%)
	岩手 ひとめぼれ	14,629	14,688	(100%)	12,111	(121%)
	岩手 あきたこまち	—	—	—	—	—
	宮城 ひとめぼれ	—	14,784	—	11,840	—
	宮城 ササニシキ	—	—	—	—	—
	秋田 あきたこまち	15,423	15,312	(101%)	12,693	(122%)
	山形 はえぬぎ	14,416	14,398	(100%)	11,685	(123%)
	福島 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	福島 コシヒカリ	13,865	14,323	(97%)	—	—
関東・東山	茨城 コシヒカリ	15,700	15,637	(100%)	—	—
	栃木 コシヒカリ	15,405	15,281	(101%)	12,315	(125%)
	埼玉 彩のかがやき	—	—	—	—	—
	千葉 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	長野 コシヒカリ	—	—	—	—	—
北陸	新潟 コシヒカリ	—	18,789	—	—	—
	新潟 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	新潟 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	新潟 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	富山 コシヒカリ	—	15,966	—	—	—
	石川 コシヒカリ	—	16,343	—	—	—
	福井 コシヒカリ	—	—	—	—	—
東海・近畿	三重 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	滋賀 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	滋賀 キヌヒカリ	—	—	—	—	—
	兵庫 コシヒカリ	—	—	—	—	—
中国・四国	鳥取 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	島根 コシヒカリ	—	15,525	—	—	—
	広島 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	山口 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	徳島 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	香川 ヒノヒカリ	14,916	14,895	(100%)	11,571	(129%)
九州	高知 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	福岡 ヒノヒカリ	—	14,661	—	12,332	—
	佐賀 夢しずく	14,567	14,638	(100%)	—	—
	熊本 ヒノヒカリ	15,134	15,022	(101%)	—	—
	大分 ヒノヒカリ	—	—	—	—	—
	宮崎 コシヒカリ	—	—	—	—	—
鹿児島 ヒノヒカリ	—	—	—	—	—	
全銘柄平均価格		15,643	15,567	(100%)	12,896	(121%)

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1:相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)の価格(運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。)であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。その際、新潟、長野、静岡以東(東日本)の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本)の産地銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

2:また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等(栽培方法等)の価格調整が行われることがある。

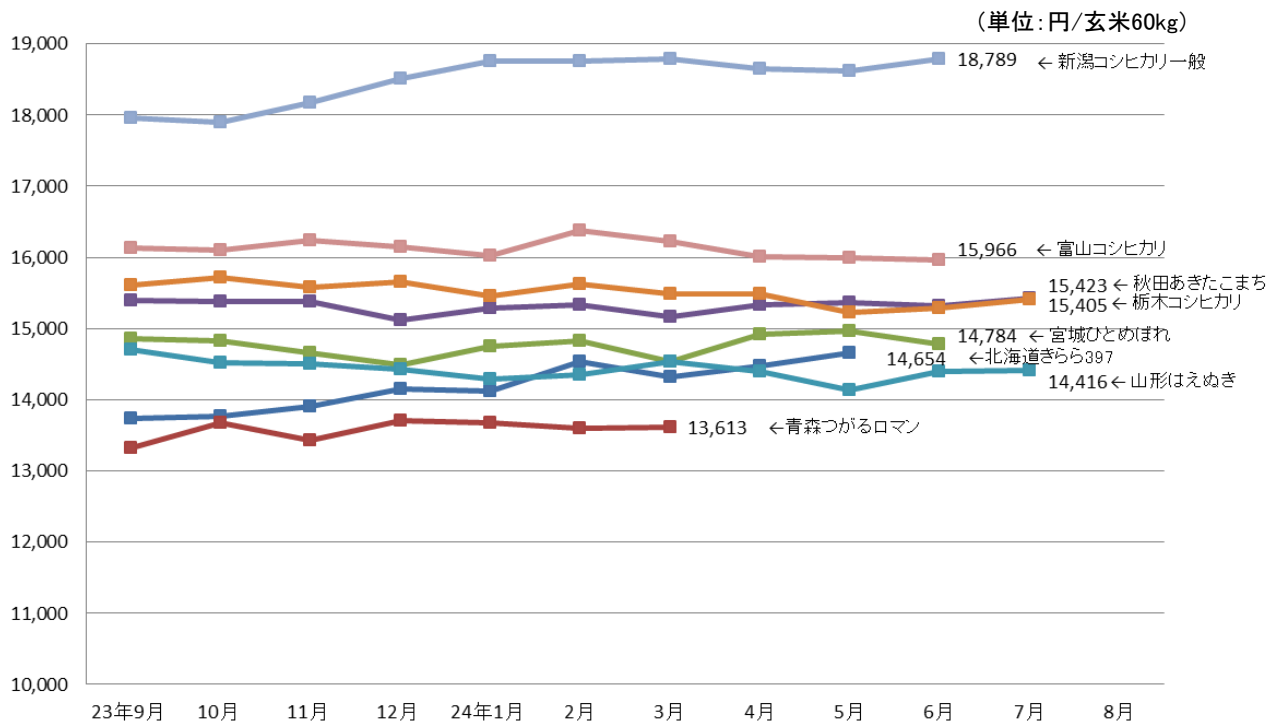
3:産地銘柄は、ア 22年産の公表対象産地銘柄が存在した道府県における当該産地銘柄、又はイ ア以外の道府県における22年産の検査数量の最も多かった1銘柄のうち、22年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のものであり、月1,000トン以上の取引があったものである。

4:全銘柄平均価格は、報告対象産地銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

5:23年7月は22年産の価格である。

6:23年産については速報値である。

② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成23年産米）

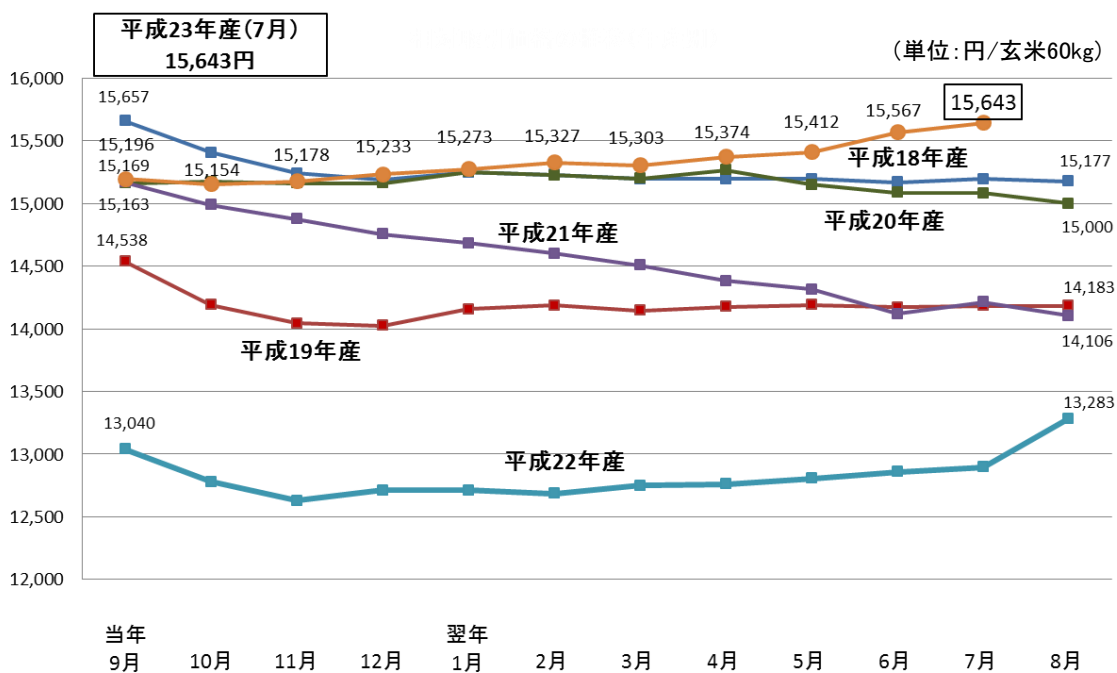


資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1: 相対取引価格に関する留意点については、①の注釈を参照。

注2: 月間の取引量が1,000トン未満となった産地銘柄については、当該月の価格は上表に掲載していない。

③ 相対取引価格（年産別）



資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注: 相対取引価格に関する留意点については、①の注釈を参照。

④ 相対取引数量

(累積数量、平成23年産米の主な産地銘柄別、平成24年7月)(速報)

(単位：玄米トン)

産地	品種銘柄 (地域区分)	23年産 (24年7月まで)	(前年比)	(前々年比)	22年産 (23年7月まで)	21年産 (22年7月まで)	
		①	①/②	①/③	②	③	
北海道	北海道 きらら397	128,212	(119%)	(151%)	107,793	85,152	
	北海道 ななつぼし	155,220	(117%)	(170%)	133,101	91,419	
東北	青森 つがるロマン	41,058	(94%)	(73%)	43,463	56,597	
	青森 まっしぐら	68,147	(152%)	(149%)	44,697	45,854	
	岩手 ひとめぼれ	120,132	(112%)	(139%)	107,151	86,482	
	岩手 あきたこまち	26,472	(100%)	(99%)	26,460	26,701	
	宮城 ひとめぼれ	150,097	(101%)	(153%)	147,915	98,362	
	宮城 ササニシキ	12,280	(98%)	(131%)	12,559	9,402	
	秋田 あきたこまち	197,021	(99%)	(99%)	198,868	199,549	
	山形 はえぬき	127,739	(105%)	(104%)	121,227	123,065	
	福島 コシヒカリ	会津	34,387	(94%)	(94%)	36,545	36,550
	福島 コシヒカリ	中通り	41,922	(127%)	(94%)	32,937	44,624
	福島 コシヒカリ	浜通り	7,300	(43%)	(39%)	16,918	18,544
	福島 ひとめぼれ		34,158	(78%)	(69%)	43,692	49,646
	関東・東山	茨城 コシヒカリ	57,628	(116%)	(106%)	49,860	54,203
栃木 コシヒカリ		124,160	(103%)	(88%)	120,131	140,953	
埼玉 彩のかがやき		12,261	(456%)	(103%)	2,690	11,933	
千葉 コシヒカリ		38,715	(87%)	(85%)	44,260	45,340	
長野 コシヒカリ		55,247	(96%)	(94%)	57,735	58,692	
北陸	新潟 コシヒカリ	一般	130,960	(98%)	(89%)	133,348	147,488
	新潟 コシヒカリ	魚沼	27,627	(138%)	(135%)	20,063	20,462
	新潟 コシヒカリ	佐渡	18,329	(112%)	(101%)	16,397	18,158
	新潟 コシヒカリ	岩船	14,515	(106%)	(97%)	13,666	14,923
	富山 コシヒカリ		96,151	(97%)	(124%)	99,271	77,829
	石川 コシヒカリ		27,805	(91%)	(108%)	30,517	25,757
	福井 コシヒカリ		24,922	(96%)	(88%)	26,058	28,292
	福井 ハナエチゼン		12,016	(49%)	(60%)	24,352	20,149
東海・近畿	三重 コシヒカリ	一般	15,478	(87%)	(92%)	17,800	16,815
	滋賀 コシヒカリ		25,477	(91%)	(97%)	28,025	26,299
	滋賀 キヌヒカリ		13,160	(91%)	(89%)	14,411	14,821
	兵庫 コシヒカリ		12,737	(85%)	(92%)	14,934	13,777
中国・四国	鳥取 コシヒカリ		6,456	(60%)	(47%)	10,775	13,766
	島根 コシヒカリ		22,728	(109%)	(98%)	20,852	23,113
	広島 コシヒカリ		16,644	(73%)	(78%)	22,930	21,429
	山口 コシヒカリ		15,015	(98%)	(88%)	15,356	17,148
	徳島 コシヒカリ		9,899	(94%)	(86%)	10,553	11,521
	香川 ヒノヒカリ		12,582	(86%)	(77%)	14,680	16,237
	高知 コシヒカリ		6,082	(85%)	(70%)	7,166	8,659
九州	福岡 ヒノヒカリ		22,566	(104%)	(83%)	21,752	27,333
	佐賀 夢しずく		11,575	(94%)	(88%)	12,273	13,199
	熊本 ヒノヒカリ		12,668	(182%)	(101%)	6,950	12,580
	大分 ヒノヒカリ		11,239	(114%)	(71%)	9,829	15,735
	宮崎 コシヒカリ		6,179	(81%)	(51%)	7,597	12,014
	鹿児島 ヒノヒカリ		7,270	(221%)	(92%)	3,284	7,869
全銘柄合計契約数量		2,546,335	(104%)	(103%)	2,437,195	2,476,296	

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

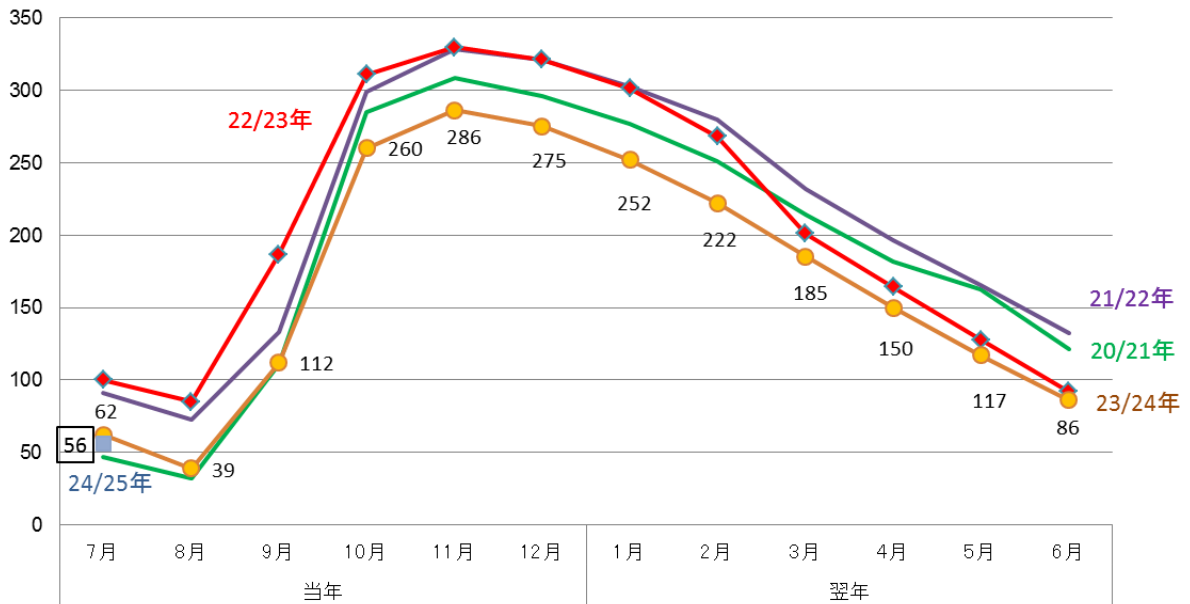
注1：相対取引数量は、ア 全国団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者が、卸売業者等と主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)を行った数量である。
 なお、新潟、長野、静岡(東(東日本)の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本の産地銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。

2：産地銘柄は、ア 22年産の公表対象産地銘柄が存在した道府県における当該産地銘柄、又はイ ア以外の道府県における22年産の検査数量の最も多かった1銘柄のうち、22年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のもの。

3：全銘柄合計契約数量は、農林水産省が公表している相対取引価格の報告対象銘柄の契約数量の合計。

(2) 民間在庫（出荷段階）の推移

単位: 万トン



(単位: 万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均
20/21年	47	32	111	285	308	296	277	251	214	182	163	121	191
対前年差	+44	+41	+22	+14	+20	+25	+26	+28	+18	+15	+2	+11	+22
21/22年	91	73	133	299	328	321	303	279	232	197	165	132	213
対前年差	+9	+12	+54	+12	+1	▲0	▲1	▲11	▲31	▲32	▲37	▲40	▲5
22/23年	100	85	187	311	329	321	301	268	201	164	128	92	207
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6	▲36
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86	171
対前年差	▲6												▲115
24/25年	56												56
対前年差	▲6												▲115

資料：農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」(~20年7月)、農林水産省「米穀の取引に関する報告徴収」(20年8月~)

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の月末在庫量(玄米換算)の値である。

2：米穀の出荷の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が500トン以上の者の値である。

3：期間については、23/24年であれば、23年7月~24年6月である。

4：22/23年7月末以降は、速報値である。

5：23年3月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。

6：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(3) 23年産米相対取引基準価格(全農)の推移
(全農公表資料をもとに農林水産省において算出)

(円/60kg、建値:基準地着、1等、包装代・消費税込み)

期間	相対取引基準価格 (全農)	相対取引価格 (農林水産省)	期間	相対取引基準価格 (全農)	相対取引価格 (農林水産省)
23年 8/8~	15,912 (1)	非公表	2/6~	16,009 (57)	15,327 (107)
8/15~	15,408 (2)		2/13~	16,009 (57)	
8/22~	15,584 (5)		2/20~	16,009 (57)	
8/29~	16,120 (11)		2/27~	16,009 (57)	
9/5~	16,006 (19)	15,196 (84)	3/5~	16,009 (57)	15,303 (107)
9/12~	16,848 (29)		3/12~	16,009 (57)	
9/20~	16,638 (32)		3/19~	16,009 (57)	
9/26~	16,101 (43)		3/26~	16,009 (57)	
10/3~	15,887 (56)	15,154 (108)	4/2~	16,009 (57)	15,374 (101)
10/11~	15,887 (56)		4/9~	16,009 (57)	
10/17~	15,888 (56)		4/16~	16,009 (57)	
10/24~	15,884 (57)		4/23~	16,009 (57)	
10/31~	15,884 (57)	15,178 (106)	5/7~	16,009 (57)	15,412 (98)
11/7~	16,032 (57)		5/14~	16,009 (57)	
11/14~	16,032 (57)		5/21~	16,009 (57)	
11/21~	16,032 (57)		5/28~	16,009 (57)	
11/28~	16,032 (57)	15,233 (107)	6/4~	16,009 (57)	15,567 (102)
12/5~	16,032 (57)		6/11~	16,009 (57)	
12/12~	16,032 (57)		6/18~	16,009 (57)	
12/19~	16,032 (57)		6/25~	16,009 (57)	
12/26~	16,032 (57)	15,273 (107)	7/2~	16,009 (57)	15,643 (98)
24年 1/10~	16,032 (57)		7/9~	16,009 (57)	
1/16~	16,065 (57)		7/17~	16,009 (57)	
1/23~	16,065 (57)		7/23~	16,009 (57)	
1/30~	16,009 (57)		7/30~	16,009 (57)	

注1: 相対取引基準価格(全農)は、全農が公表している全産地銘柄の相対取引基準価格を基に、農林水産省において、消費税及び包装代(154円/60kg)を加算し、前年産の検査数量ウェイトを用いて加重平均したものの。

2: 相対取引基準価格(全農)の欄の括弧内の数字は、全農が公表している相対取引基準価格の産地銘柄数。

3: 相対取引価格(農林水産省)の欄の括弧内の数字は、農林水産省が公表している相対取引価格の全銘柄平均価格の算出に用いた産地銘柄数。

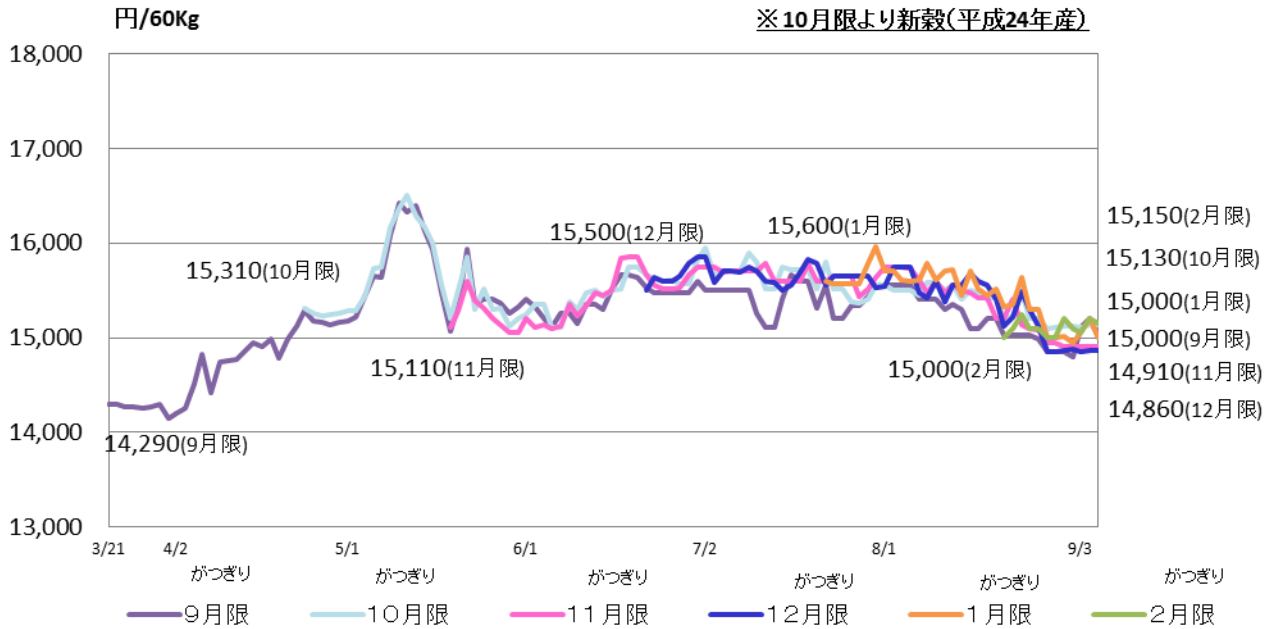
(4) (株)加工用米取引センターの取引結果

取引日	商品名	終値
平成24年9月3日(月曜日)	24年千葉ふさおとめ(主食用)	15,800円/60kg (263円/kg)
平成24年9月3日(月曜日)	24年千葉ふさおとめ(主食用)	15,700円/60kg (262円/kg)

資料: (株)加工用米取引センターHP

(5) 米の先物取引価格の推移

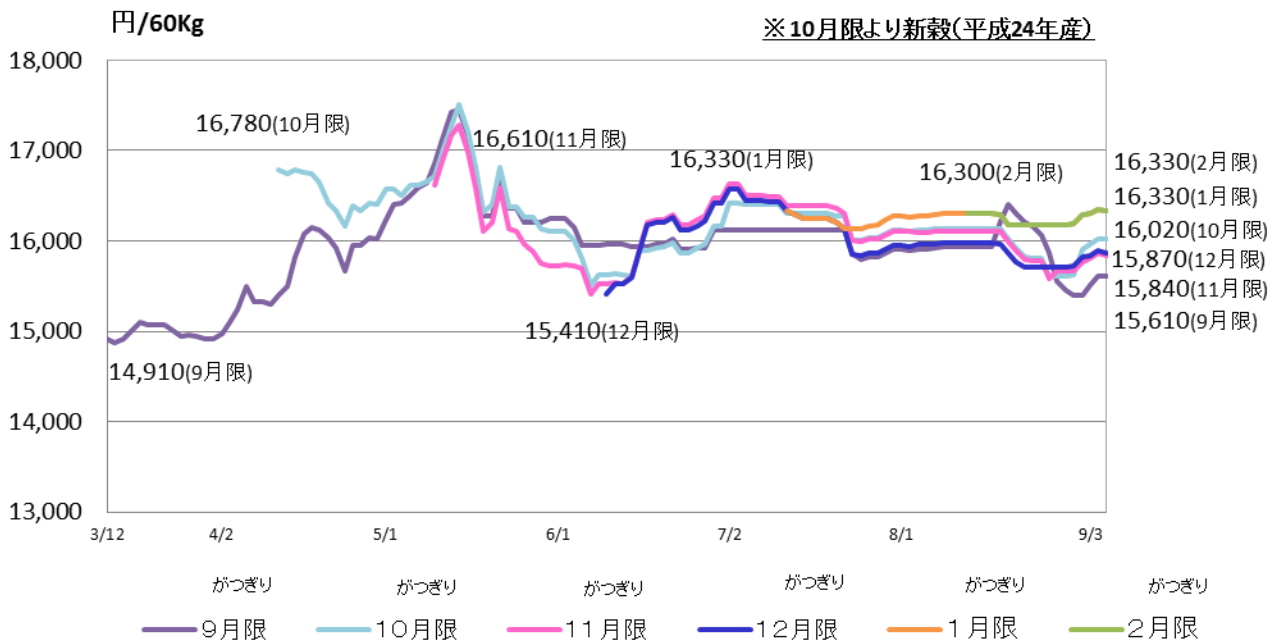
①東京穀物商品取引所



出典:東京穀物商品取引所

注:取引開始から9月5日日中取引終了までの価格の推移である。

②関西商品取引所



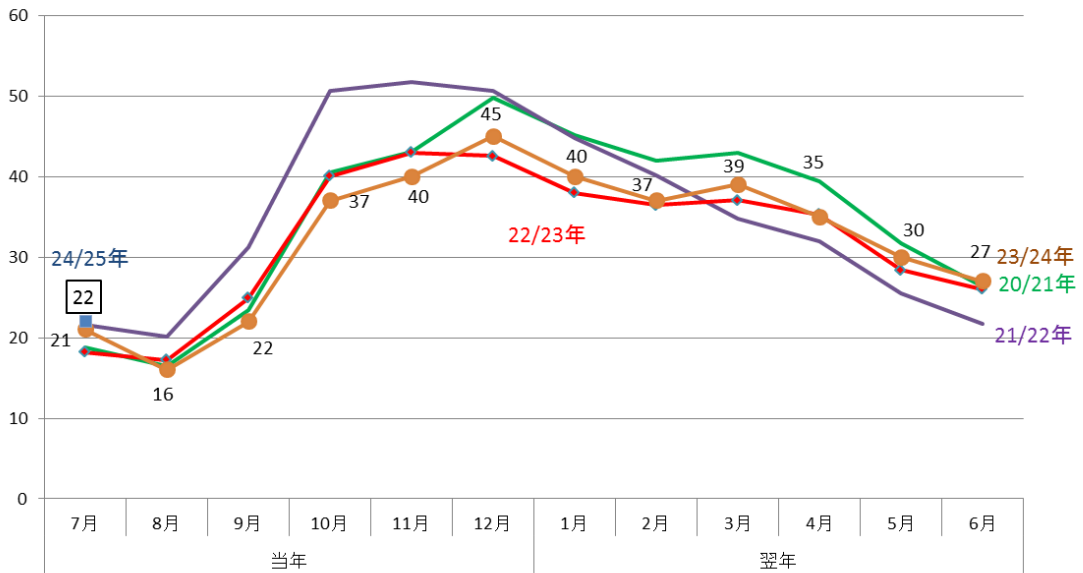
出典:関西商品取引所

注:取引開始から9月5日後場第3節までの価格の推移である。

Ⅲ 卸売段階の動向

(1) 民間在庫（販売段階）の推移

単位: 万トン



(単位: 万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均
20/21年	19	17	23	41	43	50	45	42	43	39	32	26	35
21/22年	22	20	31	51	52	51	45	40	35	32	26	22	35
対前年差	+3	+4	+8	+10	+9	+1	▲0	▲2	▲8	▲7	▲6	▲5	±0
22/23年	18	17	25	40	43	43	38	36	37	35	28	26	32
対前年差	▲3	▲3	▲6	▲11	▲9	▲8	▲7	▲4	+2	+3	+3	+4	▲3
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27	32
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	±0	+2	+1	±0
24/25年	22												22
対前年差	+1												▲10

資料: 農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」(~20年7月)

農林水産省「米穀の取引に関する報告」(20年8月~)

注1: 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の月末在庫量(玄米換算)の値である。

2: 米穀の販売の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が4,000トン以上の者の値である。

3: 期間については、23/24年であれば、23年7月~24年6月である。

4: 22/23年7月以降の値は、速報値である。

5: 23年3月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。

6: ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(2) 業者間取引の状況

① 日本コメ市場（随時取引の結果）

○ 価格は、主にスポット取引の価格であり、相当期間にわたり安定的に行う取引の価格とは性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。

関東到着基準、1等、包装代込、税抜き、円/60kg

年産・産地銘柄	9月下旬	10月上旬	10月下旬	11月上旬	11月下旬	12月上旬	12月下旬	1月上旬	1月下旬	2月上旬	2月下旬	3月上旬	3月下旬
23年産 北海道きさら397	-	-	13,903	13,992	-	14,000	-	-	-	-	-	-	-
23年産 青森つがるロマン	13,461	13,825	13,678	13,835	13,884	-	-	-	-	-	-	-	-
23年産 秋田あきたこまち	15,333	15,096	15,233	15,437	15,294	15,427	15,466	15,523	15,483	15,479	15,679	15,713	15,679
23年産 宮城ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	14,320	-	14,805	14,726	-	15,490	-
23年産 福島中通りコシヒカリ	-	-	-	14,262	-	-	-	-	-	13,979	-	14,236	14,415
23年産 茨城コシヒカリ	14,658	-	14,878	-	-	-	14,873	-	15,274	15,390	-	15,254	15,489
23年産 栃木コシヒカリ	14,545	14,725	14,803	14,857	-	14,931	-	14,938	15,249	15,750	15,481	15,481	15,575
23年産 新潟コシヒカリ	17,597	17,941	18,021	18,614	-	-	-	-	18,758	-	-	-	17,903

年産・産地銘柄	4月上旬	4月下旬	5月上旬	5月下旬	6月上旬	6月下旬	7月上旬	7月下旬	8月上旬
23年産 北海道きさら397	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23年産 青森つがるロマン	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23年産 秋田あきたこまち	16,201	-	18,392	19,195	-	18,633	-	18,761	18,758
23年産 宮城ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23年産 福島中通りコシヒカリ	15,546	-	16,956	-	16,750	-	-	-	16,348
23年産 茨城コシヒカリ	15,757	-	-	18,254	17,800	-	17,137	16,871	16,843
23年産 栃木コシヒカリ	-	-	-	-	-	17,540	-	17,133	-
23年産 新潟コシヒカリ	-	-	-	19,265	-	-	-	-	-

出典：日本コメ市場株式会社HP

- 注1：随時取引とは、取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引である。
 2：上記価格は、日本コメ市場株の取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
 3：上期は、1日から15日まで、下期は、16日から月末までを示す。
 4：「-」に関しては、成約数量が日本コメ市場の内部規程で定める基準を満たさなかったため非公表。

② 日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）

（主たる銘柄の成約状況）

（単位：円/俵、トン）

年産・産地銘柄	平成24年度					
	第1回 5月10日		第2回 7月19日		第3回 8月23日	
	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量
23年産 宮城ひとめぼれ	-	-	18,793	33	18,206	26
23年産 秋田あきたこまち	18,949	91	18,810	43	18,200	24
23年産 山形はえぬき	18,640	48	-	-	17,842	61
23年産 茨城コシヒカリ	18,189	78	16,930	79	-	-
23年産 栃木コシヒカリ	-	-	17,400	44	-	-
23年産 千葉コシヒカリ	18,225	67	-	-	-	-
23年産 新潟一般コシヒカリ	19,083	133	17,781	47	-	-
24年産 茨城あきたこまち	-	-	-	-	15,900	36
24年産 千葉ふさおとめ	-	-	-	-	15,969	48
成約米穀の平均価格（加重平均）	17,829	1,278	17,264	505	16,611	463

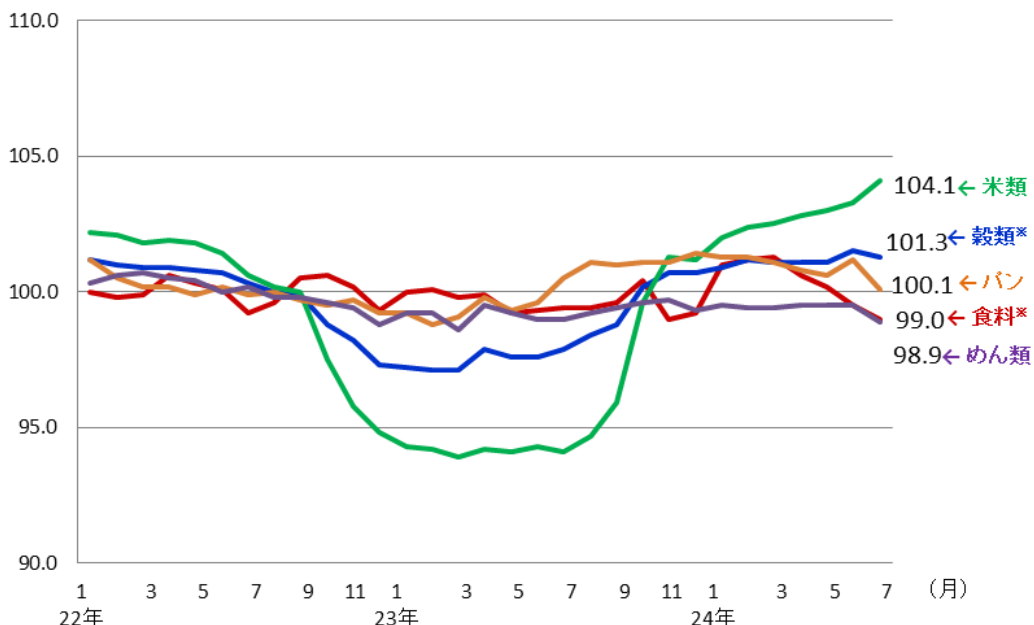
出典：日本コメ市場株式会社のHP

- 注1：取引会における取引は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において開催される取引会において入札により行われるものである。
 2：価格は、1等、包装代（紙袋）含む関東着基準であり、取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
 3：「-」は、同社のホームページにおいて非公表を示す。

IV 小売・消費段階の動向

(1) 消費者物価指数の推移

(図) 消費者物価指数の推移



注1: 図中の実線は、平成22年を100とした数値となる。

2: 図中の数値は、平成24年5月の消費者物価指数となる。

3: 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

(表) 消費者物価指数の推移 (対前年同月比)

	食料		穀類		米類		うるち米	パン		めん類		
	対前年同月比	対前年同月比	対前年同月比	対前年同月比	対前年同月比	対前年同月比		対前年同月比	対前年同月比			
平成17年	96.8	▲0.9%	98.5	▲6.6%	109.8	▲13.3%	109.8	▲12.9%	91.6	▲1.1%	91.2	▲0.9%
平成18年	97.3	0.5%	96.8	▲1.7%	106.4	▲3.1%	106.5	▲3.0%	91.5	▲0.1%	90.1	▲1.2%
平成19年	97.6	0.3%	96.4	▲0.4%	104.5	▲1.8%	104.7	▲1.7%	92.1	0.7%	89.7	▲0.4%
平成20年	100.1	2.6%	102.6	6.4%	103.2	▲1.2%	103.4	▲1.2%	103.8	12.7%	100.2	11.7%
平成21年	100.3	0.2%	103.3	0.7%	103.6	0.4%	103.6	0.2%	104.0	0.2%	101.9	1.7%
平成22年	100.0	▲0.3%	100.0	▲3.2%	100.0	▲3.5%	100.0	▲3.5%	100.0	▲3.8%	100.0	▲1.9%
平成23年	99.6	▲0.4%	98.4	▲1.6%	96.0	▲4.0%	95.9	▲4.1%	100.2	0.2%	99.2	▲0.8%
平成23年1月	100.0	0.0%	97.2	▲4.0%	94.3	▲7.7%	94.3	▲7.8%	99.2	▲2.0%	99.2	▲1.1%
2月	100.1	0.3%	97.1	▲3.9%	94.2	▲7.7%	94.0	▲7.9%	98.8	▲1.7%	99.2	▲1.4%
3月	99.8	▲0.1%	97.1	▲3.8%	93.9	▲7.8%	93.8	▲7.9%	99.1	▲1.1%	98.6	▲2.1%
4月	99.9	▲0.7%	97.9	▲3.0%	94.2	▲7.6%	94.1	▲7.7%	99.8	▲0.4%	99.5	▲1.0%
5月	99.2	▲1.1%	97.6	▲3.2%	94.1	▲7.6%	93.9	▲7.8%	99.3	▲0.6%	99.2	▲1.2%
6月	99.3	▲0.8%	97.6	▲3.1%	94.3	▲7.0%	94.1	▲7.3%	99.6	▲0.6%	99.0	▲1.0%
7月	99.4	0.2%	97.9	▲2.4%	94.1	▲6.5%	94.0	▲6.6%	100.5	0.6%	99.0	▲1.2%
8月	99.4	▲0.2%	98.4	▲1.6%	94.7	▲5.5%	94.6	▲5.6%	101.1	1.1%	99.2	▲0.6%
9月	99.6	▲0.9%	98.8	▲1.1%	95.9	▲4.1%	95.8	▲4.2%	101.0	1.3%	99.4	▲0.4%
10月	100.4	▲0.2%	100.2	1.4%	99.6	2.2%	99.7	2.4%	101.1	1.6%	99.6	0.0%
11月	99.0	▲1.2%	100.7	2.5%	101.3	5.7%	101.5	6.2%	101.1	1.4%	99.7	0.3%
12月	99.2	▲0.1%	100.7	3.5%	101.2	6.8%	101.5	7.2%	101.4	2.2%	99.3	0.5%
平成24年1月	101.0	1.0%	100.9	3.8%	102.0	8.2%	102.3	8.5%	101.3	2.1%	99.5	0.3%
2月	101.2	1.1%	101.2	4.2%	102.4	8.7%	102.7	9.3%	101.3	2.5%	99.4	0.2%
3月	101.3	1.5%	101.1	4.1%	102.5	9.2%	102.8	9.6%	101.1	2.0%	99.4	0.8%
4月	100.6	0.7%	101.1	3.3%	102.8	9.1%	103.0	9.5%	100.8	1.0%	99.5	0.0%
5月	100.2	1.0%	101.1	3.6%	103.0	9.5%	103.2	9.9%	100.6	1.3%	99.5	0.3%
6月	99.5	0.2%	101.5	4.0%	103.3	9.5%	103.6	10.1%	101.2	1.6%	99.5	0.5%
7月	99.0	▲0.4%	101.3	3.5%	104.1	10.6%	104.4	11.1%	100.1	▲0.4%	98.9	▲0.1%

資料: 総務省「消費者物価指数」(平成22年基準)

注1: 表中の数値は、平成22年を100として指数化したものである。

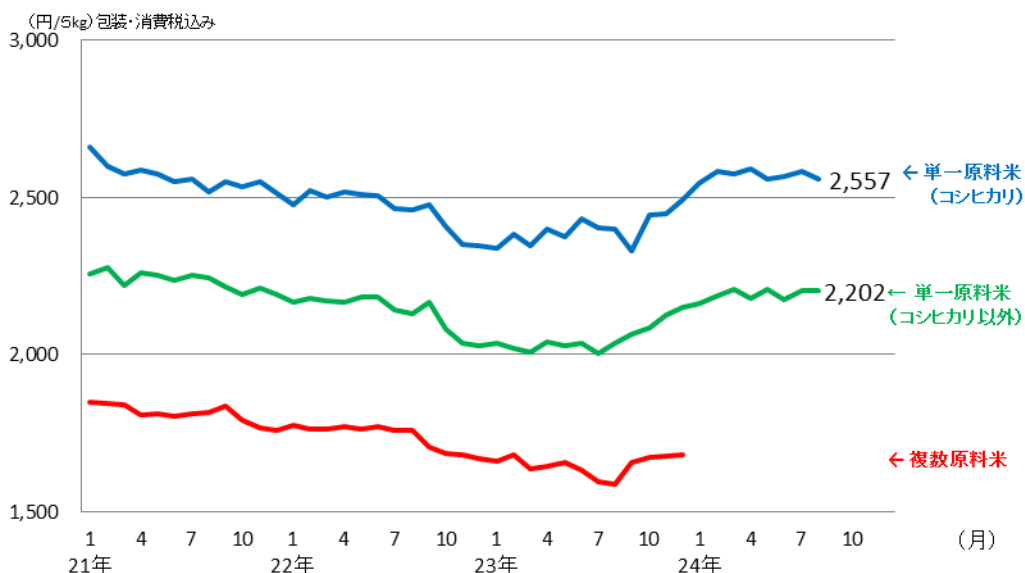
2: 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。

3: 穀類は、米類(うるち米、もち米)、パン、めん類、他の穀類からなる。

4: 平成17年から平成23年のデータは年平均、平成23年1月以降は月次データを用いている。

(2) 小売物価統計の推移

(図) 小売物価統計の推移



(表) 小売物価統計の推移

(単位: 円/5kg 包装・消費税込み)

	うるち米		
	単一原料米 (コシヒカリ)	単一原料米 (コシヒカリ以外)	複数原料米
平成17年	2,804	2,375	2,040
平成18年	2,744	2,341	1,996
平成19年	2,670	2,288	1,950
平成20年	2,610	2,270	1,832
平成21年	2,531	2,201	1,812
平成22年	2,462	2,136	1,739
平成23年	2,399	2,053	1,649
平成23年1月	2,338	2,038	1,662
2月	2,382	2,020	1,683
3月	2,347	2,006	1,636
4月	2,399	2,039	1,646
5月	2,375	2,029	1,658
6月	2,432	2,035	1,633
7月	2,405	2,003	1,594
8月	2,399	2,038	1,587
9月	2,330	2,067	1,658
10月	2,445	2,086	1,673
11月	2,448	2,128	1,677
12月	2,493	2,150	1,680
平成24年1月	2,545	2,165	-
2月	2,585	2,188	-
3月	2,576	2,209	-
4月	2,592	2,178	-
5月	2,559	2,206	-
6月	2,568	2,177	-
7月	2,583	2,205	-
8月	2,557	2,202	-

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

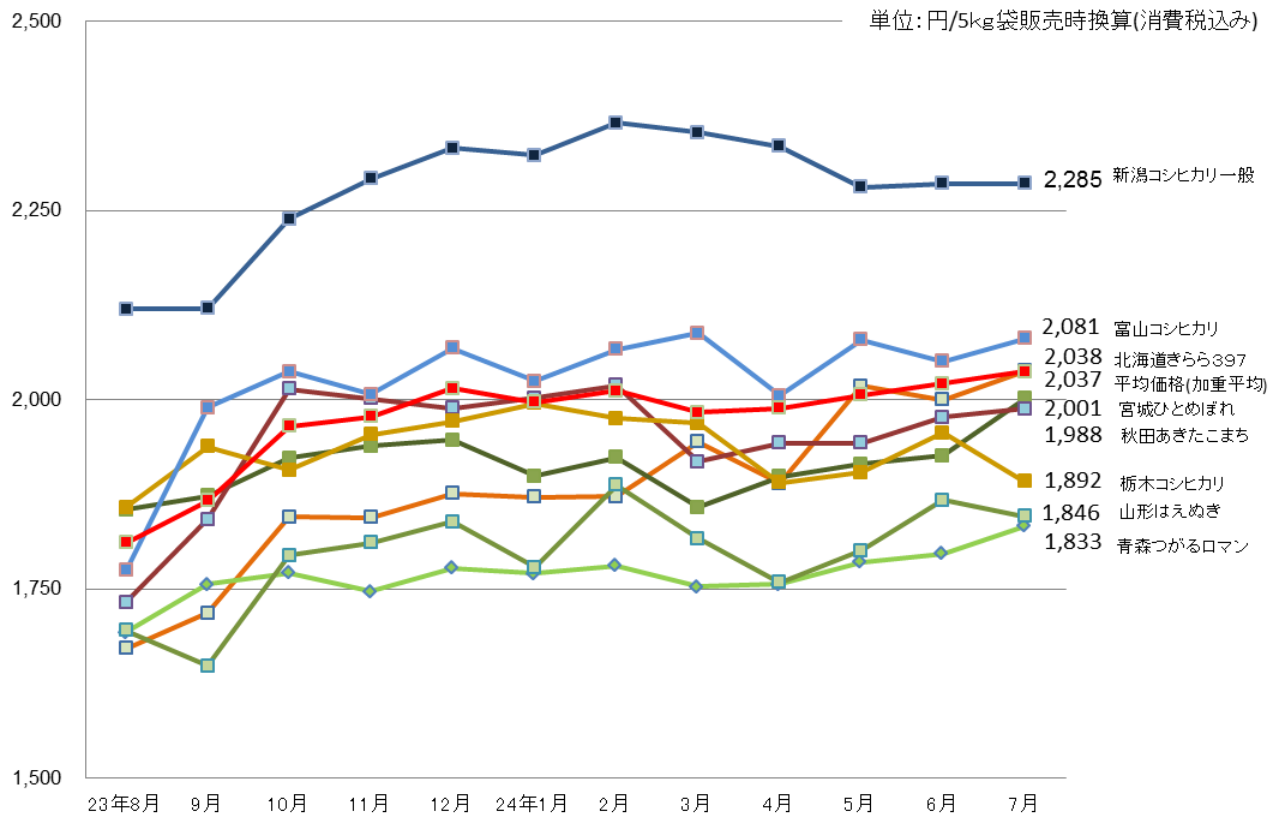
2：特売を除いた価格である。

3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

(3) 小売価格の推移 (POSデータ)

(図) 小売価格の推移



(表) 小売価格の推移

単位: 円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄									全POS取引 平均価格
	北海道 きらら397	青森 つがるロマン	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬぎ	栃木 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	富山 コシヒカリ		
8月	1,671	1,693	1,854	1,732	1,695	1,858	2,120	1,775		1,811
9月	1,718	1,756	1,873	1,842	1,648	1,938	2,120	1,990		1,866
10月	1,845	1,771	1,923	2,014	1,794	1,907	2,238	2,037		1,965
11月	1,845	1,746	1,938	2,001	1,811	1,954	2,292	2,007		1,978
12月	1,876	1,777	1,946	1,988	1,838	1,971	2,332	2,068		2,015
24年1月	1,871	1,770	1,899	2,002	1,778	1,995	2,323	2,025		1,996
2月	1,872	1,781	1,924	2,018	1,887	1,975	2,366	2,067		2,012
3月	1,944	1,753	1,857	1,918	1,816	1,968	2,353	2,087		1,983
4月	1,890	1,756	1,899	1,942	1,759	1,890	2,335	2,005		1,988
5月	2,018	1,785	1,915	1,942	1,801	1,904	2,281	2,079		2,006
6月	2,000	1,797	1,926	1,977	1,867	1,956	2,286	2,050		2,021
7月	2,038	1,833	2,001	1,988	1,846	1,892	2,285	2,081		2,037

資料: (株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

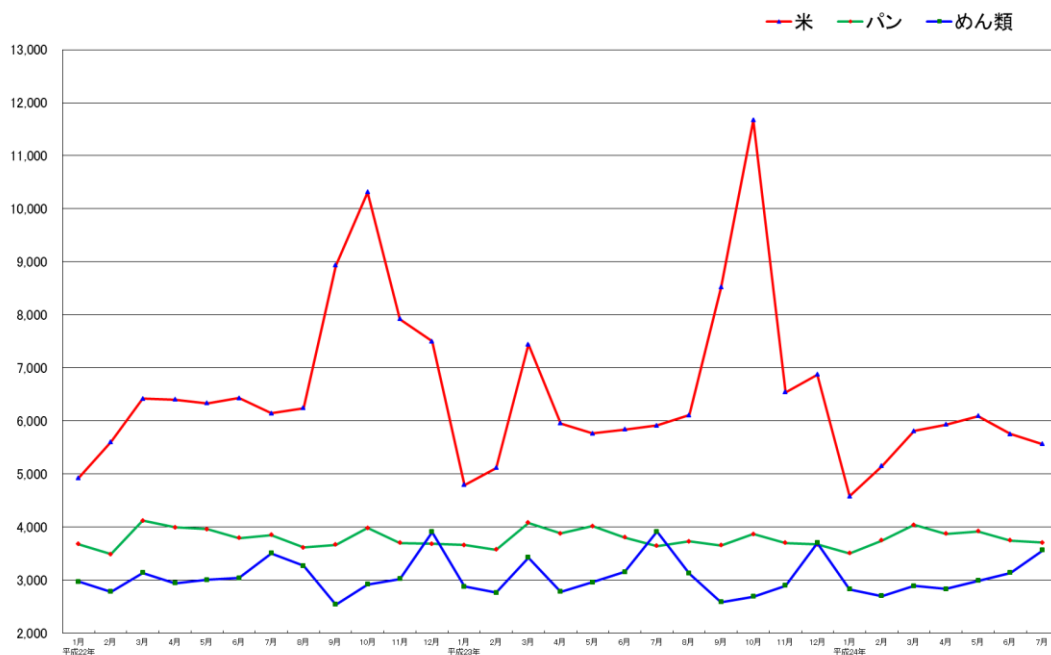
注1: (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約850店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

2: POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3: POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4: 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

(4) 購入数量の推移(家計調査)



(表)購入数量の推移

(単位:グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 同月比	購入数量	対前年 同月比	購入数量	対前年 同月比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年1月	4,920	98.0%	3,673	104.3%	2,966	103.9%
2月	5,600	100.2%	3,484	99.7%	2,778	103.3%
3月	6,420	101.3%	4,119	102.2%	3,135	100.4%
4月	6,400	96.7%	3,989	101.1%	2,937	103.0%
5月	6,330	101.8%	3,954	96.6%	3,000	94.2%
6月	6,430	106.1%	3,790	99.1%	3,038	98.8%
7月	6,140	95.8%	3,850	100.1%	3,503	101.3%
8月	6,240	94.4%	3,612	96.2%	3,268	104.6%
9月	8,930	91.6%	3,663	94.4%	2,534	100.2%
10月	10,310	91.7%	3,979	101.0%	2,914	101.2%
11月	7,920	98.5%	3,700	99.0%	3,020	100.9%
12月	7,500	104.9%	3,680	103.1%	3,906	104.4%
平成23年1月	4,790	97.4%	3,656	99.5%	2,875	96.9%
2月	5,110	91.3%	3,573	102.6%	2,763	99.5%
3月	7,440	115.9%	4,076	99.0%	3,424	109.2%
4月	5,950	93.0%	3,878	97.2%	2,776	94.5%
5月	5,760	91.0%	4,015	101.5%	2,958	98.6%
6月	5,840	90.8%	3,804	100.4%	3,149	103.7%
7月	5,910	96.3%	3,640	94.5%	3,911	111.6%
8月	6,110	97.9%	3,724	103.1%	3,122	95.5%
9月	8,520	95.4%	3,653	99.7%	2,583	101.9%
10月	11,670	113.2%	3,866	97.2%	2,686	92.2%
11月	6,540	82.6%	3,700	100.0%	2,893	95.8%
12月	6,870	91.6%	3,669	99.7%	3,695	94.6%
平成24年1月	4,580	95.6%	3,505	95.9%	2,821	98.1%
2月	5,150	100.8%	3,744	104.8%	2,699	97.7%
3月	5,810	78.1%	4,035	99.0%	2,889	84.4%
4月	5,930	99.7%	3,870	99.8%	2,831	102.0%
5月	6,090	105.7%	3,917	97.6%	2,986	100.9%
6月	5,750	98.5%	3,741	98.3%	3,132	99.5%
7月	5,560	94.1%	3,704	101.8%	3,557	90.9%

資料:総務省「家計調査」

注1:二人以上の世帯の数値である。

2:平成20年及び平成21年については、年間の購入数量を示す。

3:精米ベースである。

(5) 米の消費動向（米穀機構による調査：平成23年4月分調査から実施）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

① 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移

（上段：対前月比（24年4月からは対前年同月比）、下段：実数（精米g/人））

	平成23年4月		平成23年5月		平成23年6月		平成23年7月		平成23年8月		平成23年9月	
	(暫定値)	内訳	(暫定値)	内訳		内訳		内訳		内訳		内訳
合計	-		▲6.0%		▲1.2%		▲7.2%		+0.2%		+3.1%	
	(5,434)	(100.0%)	(5,106)	(100.0%)	5,045	100.0%	4,681	100.0%	4,692	100.0%	4,839	100.0%
家庭内	-		▲4.5%		0.9%		▲10.5%		+0.3%		+5.9%	
	(3,536)	(65.1%)	(3,377)	(66.1%)	3,406	67.5%	3,047	65.1%	3,055	65.1%	3,236	66.9%
中・外食	-		▲8.9%		▲5.2%		▲0.2%		+0.1%		▲2.1%	
	(1,898)	(34.9%)	(1,729)	(33.9%)	1,639	32.5%	1,635	34.9%	1,637	34.9%	1,603	33.1%
中食	-		▲9.6%		▲8.5%		▲4.2%		+0.3%		▲0.8%	
	(1,152)	(21.2%)	(1,041)	(20.4%)	953	18.9%	913	19.5%	916	19.5%	909	18.8%
外食	-		▲7.8%		▲0.3%		+5.2%		▲0.3%		▲3.8%	
	(746)	(13.7%)	(688)	(13.5%)	686	13.6%	722	15.4%	720	15.4%	693	14.3%
	平成23年10月		平成23年11月		平成23年12月		平成24年1月		平成24年2月		平成24年3月	
		内訳		内訳		内訳		内訳		内訳		内訳
合計	▲1.2%		+1.5%		▲5.4%		+1.4%		▲0.3%		+2.1%	
	4,783	100.0%	4,856	100.0%	4,596	100.0%	4,661	100.0%	4,649	100.0%	4,748	100.0%
家庭内	▲0.2%		+0.7%		▲8.3%		+3.8%		+2.3%		▲0.2%	
	3,229	67.5%	3,251	66.9%	2,982	64.9%	3,094	66.4%	3,166	68.1%	3,160	66.6%
中・外食	▲3.1%		+3.3%		+0.6%		▲2.9%		▲5.4%		+7.1%	
	1,554	32.5%	1,605	33.1%	1,614	35.1%	1,567	33.6%	1,483	31.9%	1,588	33.4%
中食	▲1.9%		+1.2%		▲1.4%		▲4.6%		▲1.8%		+6.7%	
	892	18.6%	903	18.6%	890	19.4%	849	18.2%	834	17.9%	890	18.7%
外食	▲4.5%		+6.0%		+3.1%		▲0.8%		▲9.6%		+7.6%	
	662	13.8%	702	14.5%	724	15.8%	718	15.4%	649	14.0%	698	14.7%
	平成24年4月		平成24年5月		平成24年6月		平成24年7月					
		内訳		内訳		内訳		内訳				
合計	▲0.7%		▲0.04%		+1.8%		+2.3%					
	5,395	100.0%	5,104	100.0%	5,135	100.0%	4,788	100.0%				
家庭内	+3.0%		+0.4%		+1.2%		+4.0%					
	3,642	67.5%	3,391	66.4%	3,446	67.1%	3,170	66.2%				
中・外食	▲7.6%		▲0.9%		+3.1%		▲1.0%					
	1,754	32.5%	1,713	33.6%	1,690	32.9%	1,618	33.8%				
中食	▲12.3%		▲5.1%		+5.4%		+3.2%					
	1,010	18.7%	988	19.4%	1,004	19.6%	942	19.7%				
外食	▲0.3%		+5.4%		+0.0%		▲6.4%					
	744	13.8%	725	14.2%	686	13.4%	676	14.1%				

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注1：平成23年4月分及び5月分の調査は、東日本大震災のため東北6県及び茨城県を調査対象外としているため、暫定値として公表。

2：平成23年6月分の調査から東北6県及び茨城県が調査対象に含まれており、24年7月分の有効調査世帯数は2,994。

3：家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握。家庭外消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯類の概量から推計。

4：集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成17年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5：ラウンドの関係で合計と内訳が合わない場合がある。

② 精米購入時の動向

(ア) 入手経路(複数回答)

	デパート	スーパーマーケット	ドラッグストア	ディスカウントストア	コンビニエンスストア	生協 (店舗・共同購入含む)	農協 (店舗・共同購入含む)	米穀専門店	産地直売所	生産者から直接購入	インターネットショップ	家族・知人などから 無償で入手	その他
平成23年4月(暫定値)	0.5	51.6	2.4	5.1	0.0	8.1	1.7	4.4	1.8	5.2	5.4	19.2	1.6
5月(暫定値)	1.3	44.6	3.9	4.3	0.3	8.4	1.2	4.6	1.4	6.4	5.5	24.4	2.9
6月	1.7	45.5	3.7	5.4	0.3	8.4	2.0	4.0	0.9	5.6	6.6	20.7	2.3
7月	1.1	43.6	3.5	4.2	0.4	10.4	1.3	3.8	1.2	7.9	5.6	22.4	2.2
8月	0.8	46.1	4.0	4.8	0.7	10.0	1.1	3.3	1.4	6.0	6.3	22.1	2.1
9月	0.2	48.3	3.1	3.7	0.2	8.7	1.2	3.5	1.4	7.2	6.2	22.7	2.1
10月	0.5	44.5	4.5	2.6	0.4	8.8	1.1	3.5	2.0	7.5	4.6	29.6	2.3
11月	0.0	43.6	2.9	4.4	0.6	7.7	0.9	4.2	1.3	7.3	6.9	28.4	2.6
12月	0.6	45.2	3.3	3.5	0.8	8.5	1.1	3.6	1.0	7.1	6.7	26.4	2.3
平成24年1月	0.4	44.3	4.8	4.4	0.8	8.1	1.5	3.8	0.4	7.1	7.8	23.9	1.9
2月	0.2	47.0	3.9	3.7	0.3	8.6	1.7	3.8	1.5	7.3	8.4	20.5	2.6
3月	0.6	46.7	4.0	4.4	0.2	8.0	1.4	2.9	1.2	7.2	7.1	21.3	1.7
4月	0.7	46.8	5.0	4.6	0.2	7.2	1.5	4.3	1.5	6.8	7.2	18.7	1.6
5月	0.5	45.9	5.1	3.6	0.2	6.4	1.9	4.3	1.7	7.1	9.4	19.4	1.5
6月	1.0	44.9	5.5	3.8	0.1	7.1	2.2	4.4	2.3	5.5	7.8	21.5	1.9
7月	1.4	47.5	5.0	3.6	0.1	7.8	2.2	4.1	1.7	6.5	7.0	20.5	1.8

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
注：上記データの留意点については、①の注釈を参照。

(イ) 重視する点(複数回答)

	産地	品種	年産	価格	食味 (おいしさ)	適量感	安全性	無洗米	精米年月日	栽培方法	製造販売事業者	販売店	その他
平成23年4月(暫定値)	42.6	53.6	31.9	76.0	47.1	8.4	25.4	-	28.2	6.4	7.2	4.2	7.8
5月(暫定値)	45.9	52.4	32.7	77.0	48.3	7.2	27.9	-	27.3	4.7	6.9	3.3	5.3
6月	44.0	53.7	34.6	78.3	50.6	7.6	24.7	-	28.5	4.7	7.9	4.0	4.8
7月	48.0	52.2	33.3	79.6	49.7	8.5	28.4	-	28.1	4.3	6.6	4.3	3.4
8月	50.9	51.2	34.8	78.4	47.8	10.3	31.4	-	25.8	4.4	6.7	4.1	4.8
9月	47.9	50.2	35.9	78.0	48.0	8.0	32.0	-	25.1	3.5	7.5	4.7	4.7
10月	53.5	52.2	37.1	77.5	49.5	10.2	32.5	-	25.6	4.5	6.8	3.8	4.5
11月	53.4	50.7	40.9	77.7	49.9	9.2	35.6	-	26.6	4.3	8.9	4.1	5.2
12月	52.4	49.4	39.5	79.0	49.2	8.4	34.4	-	27.8	3.8	7.9	6.4	4.4
平成24年1月	53.7	51.2	39.5	77.1	47.1	11.5	34.3	-	27.4	5.3	9.2	5.0	4.9
2月	51.0	49.2	37.9	79.0	48.1	8.6	33.3	-	28.8	3.8	8.7	6.0	4.9
3月	54.8	51.3	41.1	76.4	49.9	10.5	33.0	-	29.3	4.2	7.5	5.2	5.4
4月	51.5	48.2	30.2	74.3	44.6	6.7	31.7	11.2	21.0	4.2	6.4	4.2	3.9
5月	52.0	51.1	34.6	75.5	46.5	8.5	29.7	11.5	22.7	4.6	6.6	3.4	2.8
6月	52.2	50.1	33.1	75.4	47.5	9.0	32.3	11.5	23.6	5.0	6.6	4.1	3.7
7月	53.0	50.5	35.4	74.2	48.4	9.0	32.8	11.4	22.9	5.0	7.3	5.0	2.4

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
注：上記データの留意点については、①の注釈を参照。

V 生産段階の動向

(1) 国産米（水稻）の作況・収穫量

年産	作付面積 (子実用) ha	10a当たり 収 穫 量 kg	収 穫 量 (子実用) t	(参考)				作況指数
				主食用 作付面積 ha	収 穫 量 (主食用) t	10a当たり 平年収量 kg	生産数量目標 t	
18	1 684 000	507	8 546 000	529	8 330 983	96
19	1 669 000	522	8 705 000	529	8 284 755	99
20	1 624 000	543	8 815 000	1 596 000	8 658 000	530	8 149 720	102
21	1 621 000	522	8 466 000	1 592 000	8 309 000	530	8 150 020	98
22	1 625 000	522	8 478 000	1 580 000	8 239 000	530	8 129 990	98
23	1 574 000	533	8 397 000	1 526 000	8 133 000	530	7 949 990	101

出典：農林水産省統計部「統計情報」



注1：作付面積(子実用)とは、青刈り用の面積を除いた面積である。

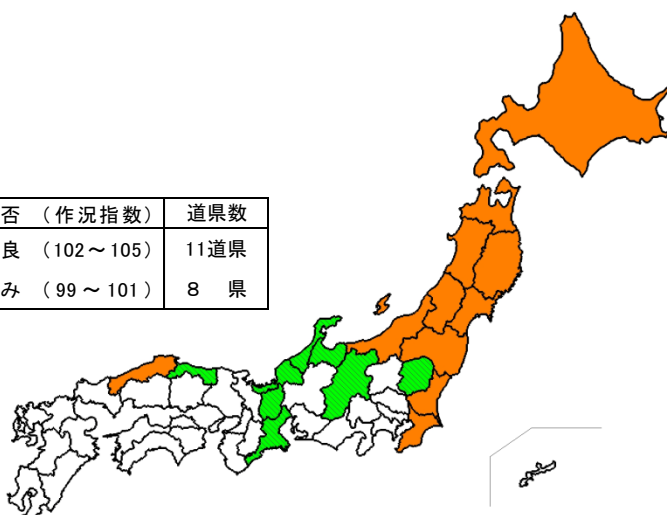
2：主食用作付面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、需給調整の取組として取り扱う米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積である。

3：「…」は、事実不詳又は調査を欠くものであることを示す。

(2) 平成24年産水稻の作柄概況(8月15日現在)

①早場地帯

区 分	作柄の良否 (作況指数)	道県数
	や や 良 (102~105)	11道県
	平年並み (99~101)	8 県



出典：農林水産省「農林水産統計」

注：1 早場地帯とは、8月15日現在の出穂済面積割合が平年ベースで概ね8割以上を占める道県であり、遅場地帯とはそれ以外の都府県である。

2 作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

3 地図上の白抜きの都府県は、遅場地帯を表す。

② 早期栽培等(西南暖地)

区 分	10 a 当たり 予想収量	10 a 当たり 平年収量	(参考)		
			予想収穫量	1)作付面積 (子実用、見込み)	作 況 指 数
	①	②	③=①×④	④	⑤=①/②
	kg	kg	t	ha	
徳 島	464	463	23,700	5,100	100
高 知	469	481	35,400	7,550	98
宮 崎	471	480	37,500	7,960	98
鹿 児 島	425	443	23,200	5,450	96
沖 縄	359	370	2,140	595	97

出典：農林水産省「農林水産統計」

注1：沖縄県は第一期稲である。

2：全国的水稻作付面積に占める西南暖地における早期栽培等の割合は、平成23年産で1.7%となっている。

3：1)の作付面積(子実用、見込み)については、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積(参考値)であり、今後変動する可能性がある。

(3) 加工用米及び新規需要米の取組状況

① 加工用米の生産量

単位:トン

	うるち米	もち米	合計
平成16年産	117,837	4,404	122,241
平成17年産	123,996	4,738	128,734
平成18年産	140,596	7,996	148,592
平成19年産	152,145	10,659	162,804
平成20年産	138,895	10,154	149,048
平成21年産	134,389	6,779	141,168
平成22年産	190,883	21,945	212,829
平成23年産	122,741	32,233	154,973

資料: 農林水産省「加工用米生産量」

注1: 四捨五入の関係で個々の数字の積み上げと合計が一致しない場合がある。

2: 平成23年産については、10月15日現在。

② 新規需要米の用途別認定状況

用途区分	平成20年産		平成21年産		平成22年産		平成23年産	
	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)
米粉用米	566	108	13,041	2,401	27,796	4,957	40,311	7,324
飼料用米	8,020	1,410	23,264	4,123	81,237	14,883	183,033	33,955
WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)	—	9,089	—	10,203	—	15,939	—	23,086
バイオエタノール用米	2,426	303	2,314	295	2,940	397	2,998	415
輸出用米	391	74	926	164	2,184	388	1,626	287
その他 (わら専用稲、青刈り用稲等)	982	1,330	1,108	956	694	508	852	501
合計	12,386	12,314	40,654	18,142	114,851	37,072	228,820	65,569

資料: 農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」

注1: WCS用稲、わら専用、青刈り用稲については子実を採らない用途であるため認定数量及び生産量はなし。

2: 四捨五入の関係で個々の数字の積み上げと合計が一致しない場合がある。

3: 「その他」の取組には、主食用以外の用途のための種子等、その用途が主食用米の需給に影響を及ぼさないものの取組が含まれる。

4: 生産量については平成22年産から徴収したものであり、実際の流通量と一致(見込み含む)。

5: 平成23年産については10月15日現在。

(4) 水稲うるち玄米の検査結果

(単位:トン、%)

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
17	5,047,547	3,788,571	1,000,515	168,455	90,006	75.1	19.8	3.3	1.8
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23 ※1	4,413,209	3,559,236	721,964	57,523	74,486	80.6	16.4	1.3	1.7
24 ※2	12,532	8,272	3,492	614	155	66.0	27.9	4.9	1.2

資料：農林水産省とりまとめ

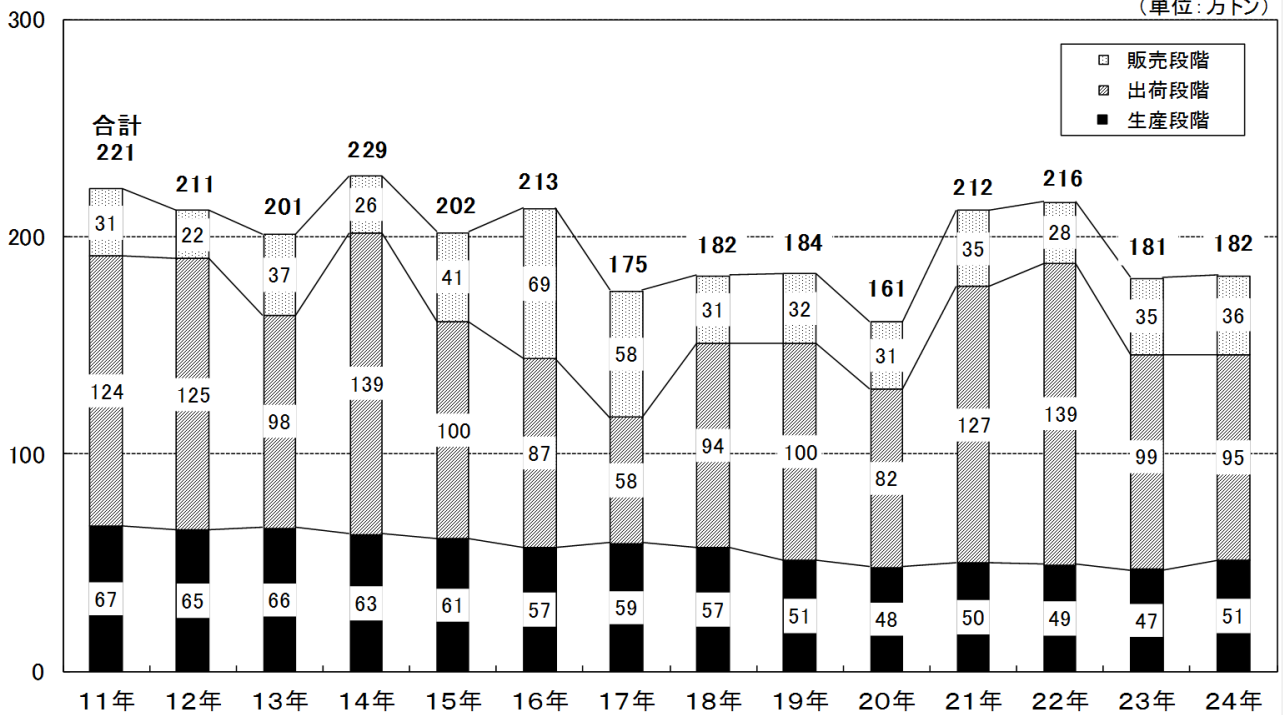
注1：「一等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、一等に格付けされた割合である。

2：※1の23年産については、平成24年3月31日現在（速報値）

3：※2の24年産については、平成24年7月31日現在（速報値）

VI 民間流通における6月末在庫の推移

(単位:万トン)



資料：農林水産省調べ

注1：うるち玄米及びもち玄米の値である。

2：各年の民間在庫量において、

①平成16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者（販売・出荷段階）の数量である。

②平成15年については、

・販売段階の在庫量は、旧登録卸売業者の年間玄米取扱数量500トン以上、旧登録小売業者の1,000トン以上の業者の数量である。

・出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。

③平成14年以前については推計値であり、

・販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量（推計）を加えた数量である。

・出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量（推計）を加えた数量である。

なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」（平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」）を基に算出した在庫量から精米在庫量（推計）を控除した玄米在庫量である。

3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

VII 備蓄米及びMA米の動向

(1) 国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量

① 24年産国内産米穀の政府買入入札の結果（第8回：最終 平成24年6月19日実施）

1 入札者数等

入札参加資格者数	90
入札者数	5
落札者数	5

2 落札数量等

単位:トン

買入対象米穀の産地	提示数量	入札数量	落札数量
指定なし	117,021	411	411

(参考) 第1回から第8回の入札における落札状況

単位:トン

買入対象米穀の産地	買入予定数量	第1回 (1月19日)	第2回 (2月7日)	第3回 (2月21日)	第4回 (3月6日)	第5回 (3月19日)	第6回 (4月17日)	第7回 (5月22日)	第8回 (6月19日)	落札数量 累計
提示数量	200,000	200,000	181,629	139,701	125,285	119,990	119,478	117,986	117,021	
指定なし	125,460	2,004	11,571	3,730	3,648	309	1,492	965	411	24,130
北海道	7,860		5,003	669	96					5,768
青森	2,400	1,002	192	180	1,014					2,388
岩手	5,680		4,846	258		45				5,149
宮城	5,700			3,952						3,952
秋田	13,230	8,843	420		252	80				9,595
山形	7,690	4,669	569	2,452						7,690
福島	1,320			52						52
茨城	90			90						90
栃木	2,500	1,050		798						1,848
千葉	100		99							99
新潟	10,120	233	9,200		165	16				9,614
富山	7,920		7,920							7,920
石川	1,120	420	120	100	120	50				810
福井	2,430		1,300							1,300
長野	100			93						93
三重	700			699						699
岡山	180	150								150
広島	1,020		448	155						603
山口	3,000		50	723		12				785
香川	590									0
愛媛	420			345						345
福岡	120			120						120
佐賀	190		190							190
熊本	60									0
道県別枠	74,540	16,367	30,357	10,686	1,647	203				59,260
合計	200,000	18,371	41,928	14,416	5,295	512	1,492	965	411	83,390

※ 岡山産の第1回落札残数量(30トン)、千葉産の第2回落札残数量(1トン)、長野産の第3回落札残数量(7トン)、三重産の第3回落札残数量(1トン)及び青森産の第4回落札残数量(12トン)については、最小申込数量(50トン)に満たないため、「指定なし」に繰り入れた。

② 国内産備蓄米の売渡数量

最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況

（単位：千トン）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
19/20年	17	24	20	21	20	7	0	1	0	1	0	6	117
20/21年	26	34	15	14	16	17	13	13	13	14	10	11	196
21/22年	6	4	4	3	3	2	1	2	2	1	2	1	31
22/23年	1	1	1	0	0	0	0	0	—	—	—	—	3
23/24年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

資料：農林水産省「最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況」

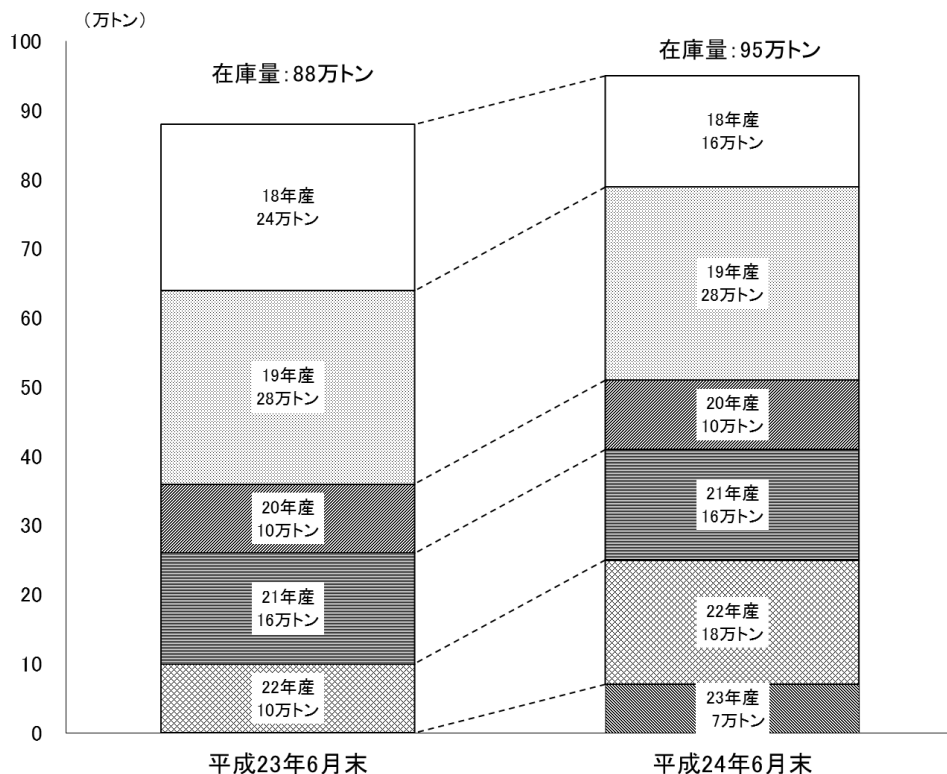
注1：期間については、22/23年であれば、平成22年7月～23年6月である。

2：販売数量は実際に卸売業者等が引き取った実績であり、契約数量とは異なる。（平成23年2月まで）

3：19/20年の11月・12月については緊急対策による販売停止以前に契約された分の引取数量であり、1～5月については矯正施設向けに販売し、引き取られた数量である。

4：平成23年1月をもって、政府所有国内産米穀（主食用）の販売入札（2月引取分まで）を終了している。

③ 政府備蓄米の在庫の状況（平成24年6月末現在）



資料：農林水産省調べ

注1：うるち玄米の数量である。

2：平成24年6月末在庫は、本年3月に、（社）米穀安定供給確保支援機構が所有する販売環境整備米8万トン（22年産）を買い入れ、4月以降、その代替として備蓄米4万トン（18年産）を飼料用に販売した後の値である。

3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

④ 23年産米の特別隔離対策等による米の供給減少分の代替供給量（※）

（単位：トン）

産年	申込数量	落札数量
19年産	50,507	20,000
20年産	47,565	6,300
21年産	79,285	13,700
計	177,357	40,000

資料：農林水産省「23年産米の特別隔離対策等による米の供給減少分の代替供給について」から

※：①東日本大震災により、倉庫に保管されていた平成22年産米が被災し、これを平成23年産米で埋め合わせる形で供給が行われたこと

②特別隔離対策（100 Bq/kgを超える平成23年産米の特別隔離対策）の対象となる米が市場隔離されることから供給量が減少したことに伴い、①及び②に見合う量4万トン（震災による倉庫被災分2万トン程度＋特別隔離対策による隔離数量2万トン程度）の代替供給を政府備蓄米から行った数量

注1：平成24年6月26日入札実施

2：引取期限は平成24年8月31日

(2) MA米（一般・SBS）の動向

① MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：万玄米トン）

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
米国	19	23	29	32	34	36	36	36	36
タイ	11	14	15	15	16	17	15	15	15
中国	3	4	5	8	9	10	14	11	11
オーストラリア	9	9	9	11	11	12	11	10	9
その他	1	1	2	2	2	2	1	5	5
合計	43	51	60	68	72	77	77	77	76
（うち一般輸入）	42	49	54	55	59	63	66	71	65
（うちSBS輸入）※	1	2	6	12	12	12	10	5	10

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
米国	36	36	36	36	43	36	36	36
タイ	19	19	18	25	27	33	35	24
中国	10	9	8	8	7	7	2	6
オーストラリア	2	2	5	-	-	-	4	7
その他	10	11	10	1	0	1	0	4
合計	77	77	77	70	77	77	77	77
（うち一般輸入）	66	66	66	59	66	66	72	66
（うちSBS輸入）※	9	10	10	10	10	10	4	10

資料：農林水産省「ミニマム・アクセス米をめぐる状況」

※SBS輸入数量の単位は万実トン。

注1：各年度の輸入契約数量の推移。なお、平成23年度については、入札結果を含んだ数値である。

2：実トンと玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

② 一般輸入米(加工原材料用)の販売状況(平成24年度)

(単位：トン)

	うるち	もち
平成24年4～6月分 (平成24年3月12日、16日及び23日実施分)	21,047	-
4月分 (平成24年3月12日、16日及び23日実施分)	1,200	698
5月分 (平成24年4月10日、17日実施分)	799	62
6月分 (平成24年5月11日、18日実施分)	1,899	34
合 計	24,945	794
	25,739	

資料：農林水産省「加工用原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の定例販売の結果について」、「加工用原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

③ SBS米の販売状況(平成23年度)

(単位：トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回(平成23年9月21日)	一般米	3,386	1,326	238	-	13,802	-	-	-	18,752
	砕精米	2,276	414	660	-	100	-	-	-	3,450
第2回(平成23年10月28日)	一般米	1,484	1,186	316	-	17,034	-	1,118	-	21,138
	砕精米	4,184	216	600	-	-	-	-	-	5,000
第3回(平成23年12月9日)	一般米	1,534	2,074	984	-	14,630	-	5,778	-	25,000
	砕精米	1,444	252	900	2,188	216	-	-	-	5,000
第4回(平成24年2月10日)	一般米	1,086	738	500	80	4,997	-	10,259	-	17,660
	砕精米	2,220	108	160	1,196	316	-	-	-	4,000
合 計	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成22年度計 (参考)	一般米	2,904	2,228	1,880	120	2,936	0	538	0	10,606
	砕精米	16,438	640	9,010	0	532	0	0	0	26,620

資料：農林水産省「平成22年度輸入米に係るSBSの結果の概要」、「平成23年度輸入米に係るSBSの結果の概要」